

「乳腺外科の外来状況」

乳癌は女性の癌として罹患率1位であり、疾患への関心も高く、乳腺専門外来の存在意義が高まっています。当院では、乳腺外来で癌と診断される患者様も増加し乳癌手術症例数も年間100件を超えます。令和元年からは外科から乳腺外科が新設され、専門的な診療体制となっています。

診療体制の変更として、今年4月より外来診療の完全予約制が開始していますが、混乱もなく診療が継続できています。完全予約制は、新規患者様への対応を行う乳腺診療スタッフ減に適応するとともに、乳癌精査を行う専門外来として、他院からの紹介、検診での要精査の場合に加え、乳癌の代表的な症状である腫瘍触知^{しゅりゅうしよくち}や血性乳頭分泌の患者様に対し、質を落とすことなく外来診療を継続するため、外来診療の新規受診を予約制とさせていただきます。これまで検診希望で当日受診されていた患者様にはご不便をおかけしておりますが、診療の質を保つため、ご理解をお願いします。

また、乳癌のみならず、線維腺腫^{せんいせんしゅ}や葉状腫瘍^{ようじょうしゅよう}などの良性腫瘍、乳房痛の原因となる乳腺症、授乳中の乳腺炎、男性にも生じる乳癌や女性化乳房症など、乳房特有の疾患を網羅的に対応しながら、乳腺治療センターとしての役割を担っていければと考えています。異常を自覚された場合は外来へ相談してください。

当施設は日本乳癌学会の認定施設です。そして新専門医制度の中南和乳腺専門研修カリキュラムの基幹病院として乳腺外科医育成の体制を整えています。次世代の乳腺外科医を育て乳腺診療の永続性を担保したいと考えていますが、奈良県の乳腺外科医数は隣接する大阪の約半数（人口比で）です。若い先生にとっても魅力のある病院となるべく、努めていきたいと考えています。

乳腺外科部長 加藤 達史